

船舶事故等調査報告書

平成22年10月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010長第64号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成22年6月8日 16時00分ごろ
発生場所	福岡県大牟田市三池港 三池港北防砂堤灯台から真方位074° 1,000m付近 (概位 北緯33°04.2′ 東経130°24.1′)
事故等調査の経過	平成22年6月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 東央丸、481トン
船舶番号、船舶所有者等	134793、東央海運株式会社
乗組員等に関する情報	機関長、五級海技士（機関） 一等機関士、四級海技士（機関）
死傷者等	なし
損傷	船底に擦過傷
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、三池港を出航するため、同港の航路を約3ノットの速力で西進中、平成22年6月8日15時58分ごろ、一等機関士（以下「一機士」という。）が、機関監視室において、電源供給中の1号発電機の気中遮断器（ACB）のスイッチをオフとしたため、ブラックアウトが発生して操船不能となり、前進惰力で左方に航行した。</p> <p>一機士は、気が動転して電源を復帰できないでいたところ、甲板上で出航配置についていた機関長がブラックアウトに気づいて、機関室に急行して電源を復帰したが、16時00分ごろ、本船の船底が、航路整備のため海底に打たれていた矢板に接触した。</p> <p>本船は、手配したタグボートによってえい航され、三池港第1区北岸壁に着岸した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 1</p> <p>海象：海上 穏やか</p>
その他の事項	<p>本船は、出航時、機関長と一機士が交替で機関当直についていた。</p> <p>本船は、15時50分ごろ、三池港第1区を出航し、1号発電機及び2号発電機を並列運転していた。</p> <p>一機士は、15時55分ごろ、2号発電機ACBのスイッチをオフとし、2号発電機用補機は運転中であった。</p> <p>一機士は、ブラックアウトしたときの電源復帰の操作方法を知っていたが、ブラックアウトは初めてであった。</p> <p>本船は、船底の損傷状況が擦過傷程度で運航に支障がなかったので、その後運航を続けた。</p>

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり あり なし 本船は、三池港の航路を西進中、ブラックアウトが発生して操船不能となったため、前進惰力で左方に航行し、船底が航路整備のために海底に打たれていた矢板に接触したものと考えられる。 一機士は、2号発電機用補機を停止するつもりであったが、電源供給中の1号発電機のACBのスイッチをオフとしたため、ブラックアウトが発生したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、三池港の航路を西進中、ブラックアウトが発生して操船不能となったため、前進惰力で左方に航行し、船底が航路の整備で海底に打たれていた矢板に接触したことにより発生したものと考えられる。	
備考	事故後、本船は、出入航時、港内では発電機を並列運転とし、機関長が機関当直につくこととした。	